

巻 頭 言

教職課程センター所長 北川 浩子

今年も教職課程センター紀要（8号）を刊行することができました。教職課程をめぐる状況は必ずしも明るいものではありません。質保証，学生確保，教職への魅力の低下など，私たちがこのような課題に直面しているのは事実です。

ところが本学の場合，長年教職課程において，地域と大学（教職課程）が綿密に連携してきました。学生たちが教職で学んだことを地域に還元し，そこで得た経験や知見を教職に反映させていけるサイクルが確立されています。

そして，その視点は本学で教職を担当する私たちも共有しています。いや，理論（教室）と実践（地域）の融合に基づいて教職課程を運営するマインドを無意識に持っているといっていかもしれません。換言すれば，本学の教職担当者は常に理論の先にあるものを考えなければならない環境が与えられているともいえるでしょう。

その成果の一端が本紀要にも掲載されております。みなさまからの忌憚のないご意見をお待ちしております。